

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200627		
法人名	株式会社あすなるホーム		
事業所名	あすなるホーム三郷		
所在地	埼玉県三郷市新和4-545-2		
自己評価作成日	平成 28 年 1 月 4 日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosoCd=1171200627-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 28 年 2 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様及びご家族様とスタッフが共に楽しめる様な季節に合わせた行事を企画し、共に安心して生活の出来る環境づくりに努めています。
特に誕生日や記念日は大切に一人ひとりの生活の様子を記録に残し、「わたしのあしあと」のアルバム作りは、ご家族様からも好評を得ています。
体調の変化は、常に情報を密にして迅速な対応が出来る環境づくりを強化し、共有化することで、安全と安心を主眼とした個別ケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時や日々の生活の中で利用者の意向や生活歴を確認し、それをケアプランに取込む事により、パッチワークや読書、書き物等以前の習慣を継続することができる。指先を使ったレクリエーションの提供や個別の室内歩行を行う事により、残存機能の維持に努めている。職員に対しては勉強会や新聞記事、日々の事例から認知症の知識、個別の関わり方等を伝えている。ケアプランと介護記録、利用者の状態が一目で分かるように「カードックス」というボードにまとめ、情報の共有化を図っている。生活リスクの配慮と一人ひとりに沿った介護を提供している。家族に対し、誕生会の様子を写真とコメントでレイアウトした物を居室の入口に提示し、1年間の様子をアルバムにする等、“目に見える”形により日々の生活を伝えている。入居前より表情が良くなったと家族が安心されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にスタッフが確認出来るように、玄関、事務所、食堂に理念を掲示し、それに基づいた目標も同時に意識づけることに努めている	会社の理念と事業所の目標がある。入職時に説明をし、意識付けている。ケアカンファレンス時に職員から出た意見が理念から離れてきた時は、管理者、主任が声掛けをして日々の介護に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、近隣の清掃及び廃品回収等にも協力し、小中高校生の体験学習やボランティア活動等も行事にも取り入れている	町会の一員として、ごみ当番や回覧板を回している。利用者の作品を市の文化祭に出品したり、近隣施設のバザーに参加している。ボランティアの受入れや近隣の方々からの相談を受け付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を作り、ポスターの貼り出しや相談があれば随時見学や具体的な事例を通して説明や支援を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を通して、情報支援を行い、緊急時、災害時の協力依頼を繰り返し確認している	利用者、家族代表も参加している。活動報告や外部評価結果報告、市職員からは介護保険等の制度について、オーナーからは地域情報について情報交換を行っている。緊急時の協力体制についても確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿いきがい課及び介護給付課福祉課には施設の実情報告とともに情報を交換し、協力体制を密にしている	直接窓口に行き、まめに相談する事ができる。市主催の研修会、グループホーム協議会に参加している。地域包括支援センターの事例勉強会に事例の提供、徘徊高齢者SOSネットワークに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの立地上安全面を考慮し、一部施錠は行っているが、身体拘束は行っていない。日頃から、声かけ目配りを強化し拘束ない生活環境づくりのケアに取り組んでいる	研修を計画的に行い、事例を用いて職員の意識の統一を図っている。夜間、職員は全体を見渡せる場所で休憩をとる、利用者の表情や行動の変化を察知して行動する等工夫し、職員間で情報共有をしながら利用者の行動を尊重している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇に対しての勉強会を通して、お互いの言動に注意を払い、利用者様の心身に変化がないか、日々観察と記録の報告に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の信頼を築くために、勉強会を通して随時必要状況に対応出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームへの問い合わせ、見学、契約等時間をかけて、丁寧に対応するようにしている。疑問に対してはその都度説明し、理解を得る事に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望については、ご家族様の面会時にその都度伺う事に努め、意見はスタッフと話し合いフィードバックすることに努めている（家族会のアンケート調査も同様に扱っている）	毎年「納涼祭」開催時にアンケートを行っている。家族の面会時には、管理者、職員から声掛けをし、話を伺っている。意見の出た時は、ケアカンファレンスや随時話し合いをし、対応する仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努め、随時スタッフは意見が言える状態となっており、お互いに意志を伝えあっている	声掛けを行い、表情や会話の中から察している。意見により、洗面所のペーパータオルを使い易い位置に変更、清拭タオルを温かく保管する製品の購入により、利用者を待たせずに対応する事が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい様に可能な範囲で勤務形態を考慮し、職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては、チェックリストの活用と勉強会や研修会に参加する機会を通じて、スキルアップにつながる様に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の勉強会や事例発表会に参加することにより、お互いのケアの振り返りとともにサービス向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご本人、ご家族様に声かけを多くして、関わりを密にとり、情報収集してその情報を共有し、その人が安心して生活出来る環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に、入居されてからの状況をお伝えしたり、またご家族様から要望も出来るだけ聞き出し、その都度相談しながらケアを行なうようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居する事をおすすめするのではなく、現状に合わせた支援は何かの話し合いを行っている。その上でサービスの導入を検討しあっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め、手を出しすぎない、スタッフのペースにならない様に気を付けている。一緒に食事をしたり、レクに参加したりと共に楽しみを共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報は必ずご家族様に伝え、相談・協力しながらケアにあたっている。常にご家族様と共に、ご本人を支援するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を歓迎し共に喜び、ご家族様との外出にも協力し、散歩等で他者との触れ合い会話を多く持つように努めている	入居時の調査や日々の会話の中で、今までの関係を把握している。家族と買い物、美容院、病院、外泊や外出で家に戻る等の支援をしている。命日には墓参りに出かけ、活き活きとして戻ってくる姿が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション等でスタッフが一緒に参加し、楽しい雰囲気づくりに努めている。また、日中過ごすフロアでの孤立をさけるため配置を工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、相談があればいつでも対応し、時には電話で近況を伺う事もあり、お互いに情報交換をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、その人の思いをくみとれる様に努め、声かけや関わりをしっかりと図るようにしている。その人の望まれる事を大切に考えケアにつなげている	利用者の行動や表情、会話の中から興味のある物や思いを探り、職員はその情報を共有している。家族から話を聞き、以前裁縫をしていた方が事業所で座布団を作ったり、桜餅やおはぎを一緒に作る事がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た最初の情報から生育歴、暮らし方を参考に、入居してからも昔の話題を傾聴しながらケアにつなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりを通して、言動・表情・身体の動きの変化を観察し、様々な変化に気づけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から、その人の現状に合わせたケアはどうあるべきか、記録と共にケースカンファレンス通して検討し、ケアに反映している	面会時に家族の意向を伺い、全職員にアンケートを取り、医療の情報と共に話し合いをして作成している。利用者の掃除やパッチワーク制作等の意向は会話の中からくみ取り反映し、生きがいや楽しみになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日その人の生活状況が分かる様に、言動・健康状態を記録し、申し送りの中で情報の共有を図り、介護計画の見直し・実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により往診を受け入れたり、訪問での介護用品の購入手続きなど利用者様、ご家族様のニーズには出来るだけ柔軟に対応する体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティア(舞踊・手品・演奏等)を受け入れている。また、音楽療法は特に活気ある時間を過ごす事ができ、入居者様も楽しみにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院もあるが、希望の医療機関の受診も可能である。また、往診も受け入れている医療機関への情報提供なども看護師を中心に、必要時は受診に同行している	希望する医療機関で受診が出来る。訪問診療時は看護師が付き添い、診療記録を家族に渡している。かかりつけ医に受診する場合は様子を文章で提供する。家族からの報告は記録し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で変化が見られた際は、すぐに看護師に報告・相談を徹底して行い、早期発見に努め、適切な受診や医療が受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、介護・看護サマリーを記入し情報提供をしている。日頃より受診時には現状報告の記録を提示し、適切な医療が受けられる様に支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状を把握した上で今後の状況等をご家族様とも話し合い、ホームで出来る事、ご本人、ご家族様の希望を考えながら支援し、連携病院にも協力を頂いている	看取りの指針があり、入居時に説明を行っている。今まで看取りの経験はないが、勉強会や研修、職員アンケートをとり、取組みを始めている。訪問診療医やグループ連携病院も近くにあり、病院との連携も取れている。	将来看取りの必要性が出てくる時の為に、事例や研修を通し、職員の意識付けを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、わかる所に掲示し初期対応に備えており、AEDの取扱い、救急時の対応について勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所、協力体制は整っており、どの様に行動すべきか指示系統の表示を明確にし、地域への協力依頼も行っている	火災、地震の訓練を行い、職員、家族との連絡方法、避難経路の確認や手順書を職員と共有している。非常持ち出し品をまとめて持ち出せるようにしてある。各利用者の名札を用意し、安全への配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけをする際には、親しい関係ではあるが馴れ合いにならないよう個人の人柄を尊重し、傷つける事なく対応していく事を常に心掛けている	個人情報取扱いについて勉強会をしている。親しくなり過ぎて、「人生の先輩」という事を忘れず対応するよう確認している。排泄時の声かけや、往診、トイレ使用時のカーテンの扱いにも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフのペースにならない様に、必ず確認の声かけを行うようにしたり、表情や行動からも読み取れるように注意しながらケアにあたり、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何を行うか強制するのではなく、いくつかの選択肢を出したり、声かけを上手に行い、相手の意思を尊重し対応する様にしている(個別性に対応)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時はお化粧を楽しんだり、洋服を選んで頂く。七夕祭りでは浴衣を着て、記念写真を撮影している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフも一緒にしており、片付けや食器拭き、テーブル拭き等も入居者様と分担して行っている。おやつ作りも定期的に行っている	利用者と準備、盛付、片づけを行う。家庭菜園の夏野菜でお新香やサラダを作り、誕生会にはケーキ、あんみつ作り等をする。2~3カ月毎の外食は、自分でメニューを決める事が出来、残す事無く食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事・水分摂取量の確認を行って記録に残し、健康管理に努めている。飲み物等も好きな物を飲んで頂ける様に考慮し、無理なく摂取出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており清潔保持に努めている。また、義歯洗浄も行い、夜間は定位置に保管管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄習慣に合わせて声かけ、誘導の手段と時間を工夫している。なるべく不快に思われる事のないように清潔に過ごして頂けるようにと、トイレでの排泄に力を注いでいる	利用者のリズムに合わせてたり、活動の合間にトイレへの声かけ誘導を行っている。夜間のポータブルトイレ、尿取りパット、おむつの使用は家族、本人の意向や体調を配慮し、ミニカンファレンス等で話し合い対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を促したり、水分摂取を促す事で便秘予防を行っている。また、必要に応じて下剤を服用し排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて、入浴回数等も考慮している。好みの湯の温度や時間にも柔軟に対応し、季節のしょうぶ湯やゆず湯等で入浴を楽しむ工夫もしている	2日に1度午前に入浴をしている。足の上がりの悪い利用者に対しては、二人介助で行っている。好みの石鹸類の使用が出来、お湯は一人ずつ交換している。しょうぶ湯、ゆず湯等は利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間も一人ひとりに合わせている。寝具の調整、室温についても、なるべくその人に合ったペースで休んで頂ける様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理責任は看護師と主任が行い、必要に応じてスタッフに説明し情報の共有に努めている。服薬時はダブルチェックの手法を義務づけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別的に生活歴や持っている力が活かされる様にその人に合った余暇活動が行えるように支援している。気分転換を図り、楽しみを持てる様に計画支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、お花見、外食会、ドライブ等の行事に合わせて個別的またはグループ毎に外出する機会を計画、実施している。天候の良い日は近隣の散歩を楽しんでいる	天候が良い日は、ほぼ全員(少人数に分かれ)が散歩に行く。個人の希望により場所や歩く時間を決めている。季節に合わせ、事業所の車を使い花見に行く。個人の衣類、化粧水の購入や花壇の苗を買いに出かける等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人のおこづかいは預かっており、使いたい時や欲しいものがある時は希望に応じて使える様にし、おこづかい帳を作り、毎月ご家族様に確認サインを受けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、希望に応じて使用して頂いている。暑中見舞い、年賀状の作成も行ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除・整理整頓はスタッフと一緒にやっている。室温管理はスタッフが行い、フロアの壁には季節感のあるご利用者様の作品が展示され、面会の方やご家族様にも喜んで頂いている	職員が温度、湿度の管理をしている。無駄な動線を作らないよう家具の配置をし、手引き歩行や見守りを厳重に行い、移動時の安全に配慮している。CDやDVDを流す時は希望を聞いている。季節毎に利用者と貼り絵を制作し、貼り換えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、三角コーナーの共用空間はそれぞれが自由にくつろぐ事ができ、和室はお雛様を飾ったり、お昼寝や日向ぼっこや談話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ってきて頂き、写真や作品を飾り付け、レイアウトは自由にご本人やご家族様の意見を取り入れて、心地良く過ごせるように協力しています	日にちと時間の意識付けの為に、入居時にカレンダーと時計を用意して貰っている。自分の作品や写真、孫の作品を部屋に置いている。居室で食後の休憩や「のど自慢」を見る等、自分のペースで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には写真や名前を掲示し、トイレの場所を分かりやすい様に掲示するなど、他者とのトラブルがない様に環境作りをしている		